

建てた家を冬に訪問させてもらえば信頼できる業者かどうかの判断材料になる。住んでいる人の表情が見えるからだ。

古澤: 私は契約する前にお客さんをそういう家に案内しますよ、冬に。そこでこんな暖かい家にしましょうと言います。お客さんニコニコしてくれます。

住宅はユーザーが想像している以上に進歩している。つくる側も驚くことがある。

柳田: とにかくすごい省エネ住宅になるんです。年間の光熱費が15万円まで行かないんです。勿論、太陽光を載せなくて、です。皆さんすごく喜んでくれています。建築時にかかった多少のお金の損得勘定はなくなってしまうようです(笑)。とにかくそんなレベルなんです。

過信は禁物、ブログや口コミ。自己主張が強すぎるお客さんには、つくる側の気持ちが入る。

井野: ネット社会になったことでブログとか口コミの内容を信じている人も多いです。中には過剰に全然違うことを主張する人もいます。全部が全部悪いとは言いませんが、情報は慎重に見極めないといけないと感じています。

1000万円で老後を暖かく快適に暮らせるリフォーム要望が増えている。

新井: 最近の傾向として、生活空間を区切って家の中のそこだけ改修という形で何件か施工しました。費用は大体1000万円です。高齢者二人が住むケースが多いのですが、水回り設備機器などを新しくし、特に冬の生活ゾーンを決め、そこだけ暖かく暮らせるようにするのです。

床暖房は関東に不要だと思う。断熱がしっかりした住宅では逆に不快になる。

新井: 私は、業者がどんなものを奨めるかで、ある程度業者の考えを知ることができると思っています。その一つに床暖房があります。断熱がしっかりすると床暖房って全く不要で、合わないですね。

性能はソコソコで、機械設備を付けて「これいいですよ」みたいな売り方する工務店いますね。そういう人は自分が機械好きなだけです(笑)

木幡: 夏は開けて冬は閉めて下さいという換気口みたいなもの。そういうのってお客さんできないですね。天井の裏の方にあって見えないですし、毎年毎年開け閉めするのは無理です。そういう小細工、私はやらないようにしています。

デザイン重視の家づくりも高断熱は基本性能だ。断熱と両立しないことはない。

井野: 私は設計する立場として、高断熱住宅というのはもう当たり前の話として、あとはどれだけデザイン性をよくできるかを目指しています。居心地を考えて、夏も冬も、どれだけ開口部を使って光や風、借景を演出できるか、それが出来るのは高断熱住宅だと思います。

断熱をいい加減にすると家は短命になる。長く工務店をしていてそう思う。

木幡: 去年のことですが、数寄屋風の和風住宅を建てたいと相談されました。その方は断熱を無視していいと言うのです。強く言うので依頼をお断りしました。高断熱住宅を知ったからには、もうそれ以外できません。断熱のいい加減な住宅は結局住まいとして短命だと思っています。

全ての話がとても役立ちましたが、建設会社の知識不足もあることは、建てる側でしっかり勉強するべきだと思った。(茨城県) 業者の言うことを鵜呑みにせず、正しい知識を身につけなくてはならないと思いました。(石川県) いろいろな方の考えも知れて助かります。(群馬県) 基準になる。業者の選び方、価格の事をしっかりと書いてある、本当に本音で語っていると思います。(群馬県)

「北関東の高断熱住宅」6号座談会で話された

高断熱住宅には床暖房は必要なし！という考えになるほどと思いました。(茨城県) 知らないことが思った以上にあって、とても勉強になりました。これからの家づくりに役立たいと思います。(群馬県) 断熱材の話、ウレタンの発泡断熱材、断熱材の特性を理解して使用すべきと思いました。(埼玉県) 住宅業者の選び方の「体験させてほしい」は参考になりました。春まで残りわずかですが体験したいと思ます。(群馬県)

南面の大開口に遮熱ペアガラスは関東に不適だ。みすみす日射熱を捨てているようなものだ。

新井: 関東は概して冬の日射が多いので、夏暑いからといって南面に遮熱ガラスを使うのは省エネの観点からも間違いです。そういう家は、冬寒いという話をよく聞きます。それに夏の暑さ対策ってそういうものじゃないんですね。

断熱施工の構造見学会は是非行くべきだ。その時しか見られない。

井野: タイミングよく構造などをお見せできるときは、「今しか見ることが出来ない」部分なので、仮にお客さんがその時には分からなくても全て説明するように心がけています。あとでその理屈がわかると思うんです。

高断熱は夏も威力を発揮する。冷房の効きも違うし暑さにびくともしない。

岸野: 夏の室内環境も重視しています。都市部はエアコン冷房で暮らすのですが、すごいことになっています。クーラーの動き方が住宅性能によって全然違うのです。外が35度以上になっても室温が上がらないのでクーラーが作動しなかったり、とにかく、こちらが驚くくらいに断熱の威力を感じます。

壁だけ直すリフォームなんて本当にもったいない。

古澤: 断熱も耐震も壁の中をいじるのですから、壁だけ張り替えるなんて本当は勿体ないんですね。そのとき、断熱工事や耐震工事をすれば一番効率的いわけですからね。

仕事上、色々な現場を見せてもらいますが、低断熱が横行しています。検査が通ればいいものじゃありません。

井野: たとえば「床断熱」の場合、玄関の断熱はしなくても基準は満たすので、玄関に断熱はしない、そうなる「玄関寒いな」っていう家がでちゃあんです。

業者との信頼関係がなければいい家はない。

大熊: 家づくりは、すぐに話が進んでいくようなものではないと思うので、じっくり担当の方と話をしてみて、「この人はウソをつかないな」とか自分に合った人を見つけるというのが、まず大前提だと思います。

建築費をコストダウンする際にもサッシガラスにはお金をかけよう。

大熊: 若い人も多いので予算の範囲内で納められるように建築面積とかで調整できるよ、お客さんと相談しながら取り組んでいます。きちんとした性能にしようとするとき重視しているのはサッシと玄関です。「このレベルより下はダメ」というのを決めておかないと、性能が変わってきてしまいます。

家の安全安心を考えたら危険な断熱材は使えない。

新井: 家は「安全」と「安心」を買っているわけですから、火事に対する危険性があれば説明しなければいけません。断熱材には「燃えにくいもの」「燃えないもの」「燃えたら有毒ガスが出るもの、出ないもの」、それに性能とコストを照らし合わせてお客さんに説明が必要です。

座談会の内容が載っている「北関東の高断熱住宅」6号を